

立川市教育だより



たっち

教育だよりの「たっち」は、みんなの心や輝きへの「タッチ」を通して、「たちかわ」の地域・家庭・学校が手をつないで、生涯を通じた学びを推進したいという思いを込めて付けた名前です。

教育委員会を紹介しします

教育委員会とは

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の定めにより、教育に関する事務を処理するため、市に設置される合議制の執行機関です。

教育委員会は、5人の委員で構成されます。この委員の合議により基本方針・施策を決定し、その具体的事務を教育長が事務局を指揮監督して執行することで運営しています。

教育委員会の会議は、委員長が招集し、毎月2回(原則として毎月第二・第四木曜日)開催しています。また、必要があるときは、臨時会を開催します。

会議は、秘密会として議決された事項を除き、公開としています。傍聴することができ、会議が開催される日時は市役所掲示場にて告示されます。また、会議の内容は議事録として、資料室及び中央図書館にて閲覧することができます。また、会議の開催日時及び会議の議事録はホームページにて公開しています。

委員

委員は、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有するものの中から、市長が、議会の同意を得て任命します。なお、委員の任期は4年で、再任されることもできます。

教育長に就任して

教育長 澤 利夫



本年6月26日より大澤教育長の後任として教育長に就任いたしました。

就任後、5ヶ月余が過ぎましたが、私は立川の子どものために、保護者のために、教職員のために、そして市民のために、教育長の職責をまっとうすべく全力投球で頑張りたいと決意を新たにしておりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

さて、教育は大なる変革の流れの中にあります。社会の急激な変化に対応する教育基本法の改正、

学校教育法など教育3法の改正があり、平成20年3月には学習指導要領の改訂もありました。社会教育分野でも社会教育法の改正や地方分権改革の動向など、まさに、今、学校教育、社会教育全般において新たな対応が求められています。教育委員会も、体制の強化とその役割と責任の明確化が求められており、学校教育では、子ども達を第一に考え、現場を大事にした取り組みを進めなければなりません。社会教育分野では、少子高齢化の中で健康で文化的な生活を基盤にスポーツ、文化面で自己実現を目指す市民の皆様の活動をしっかりとサポートする施策の展開を、そして、それらを担保する持続可能な運営体制を構築していかなければなりません。

特に、学校教育では、これまで進めてきた「少人数指導」「先生方の熱心な研究・研修への取り組み」「家庭・学校・地域との密接な連携」を基本とした教育施策の着実なる前進を図るとともに、新たな学校教育振興基本計画(仮称)の策定や教育センター構想の実現、小中一貫教育への取り組みや来年度、中学校に部活動による指定校変更制度を導入いたしますが、学校選択制の課題や新学校給食調理場の建設など、新たな教育課題などに真摯に取り組んでいきたいと思っております。

子ども達が幸せな人生を送るために、学校教育の指針に示すように、確かな力の育成と自他の生命を尊重し、やさしい心を育む教育、よさを伸ばし、個性を輝かせる教育の充実、生き方を考え、社会のために役立つ意思を育む教育の充実を図らなければなりません。そして、人格を磨き、豊かな

事務局等組織

事務局は、教育委員会の権限に属する事務を処理させるために教育委員会に置かれており、教育長の統括のもと、当該事務を処理します。なお、事務局の内部組織は、規則で定められています。また、事務局のほか市内29校ある学校や図書館は、教育機関と呼べます。

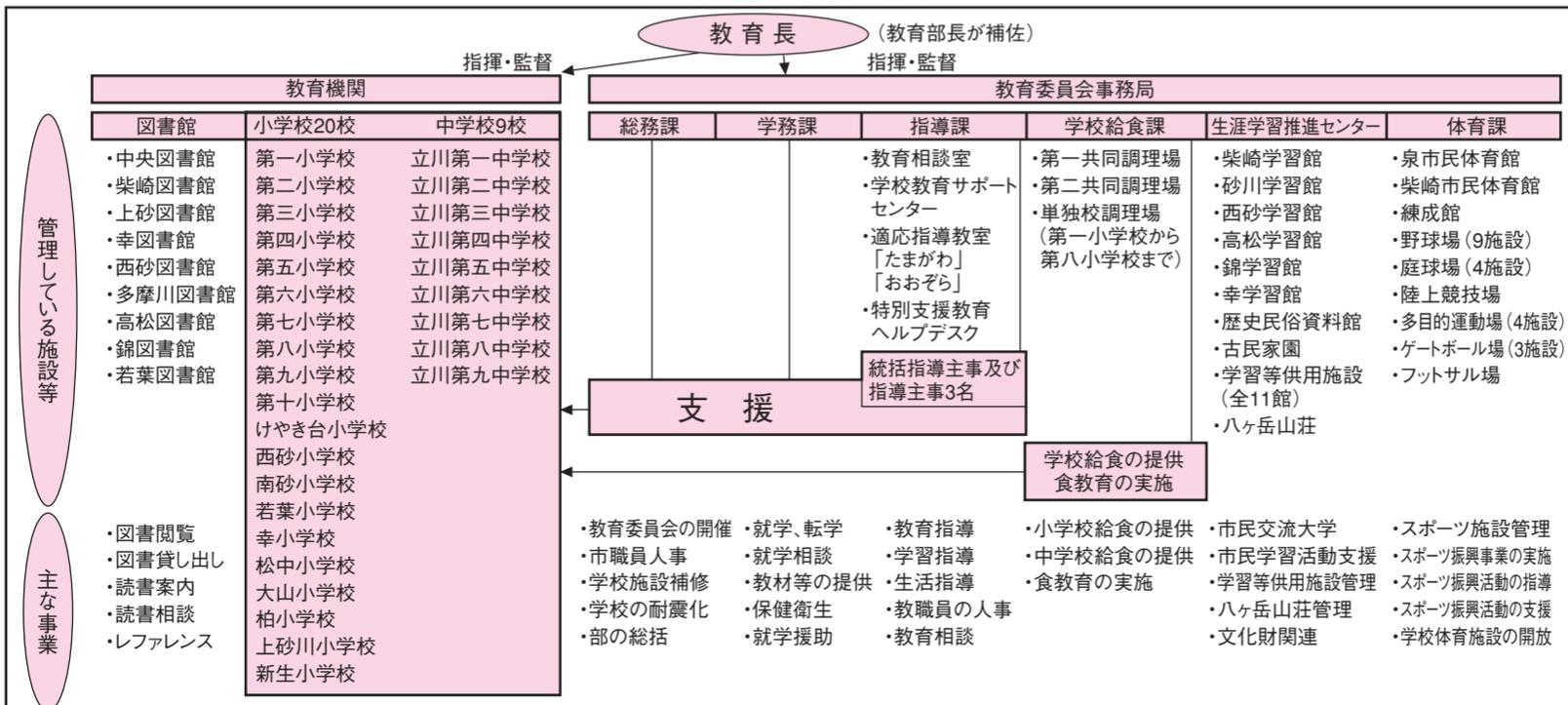
今後の取り組み

以上が立川市教育委員会の概要ですが、昨年の教育関連の法改正により、次のような新たな取り組みが課せられました。教育委員会の事務の管理及び執行状況について、外部による点検及び評価を行う。その結果を市議会に提出すると

ともに公表する。今後、これらの取り組みは広報紙又はホームページにてお知らせいたします。立川市の教育行政は、保護者をはじめ、地域の方々、ボランティア

アの方々など多くの方にお支えいただいております。今後とも立川市の教育行政の運営にご協力お願いいたします。 固教育部総務課・内332

立川市教育委員会の構成



### 学校への経営支援(学校評議員)

「学校のチャレンジの後押しをお願いして」  
**(第九小学校)**

今、第九小学校で目指している「地域に開かれた特色ある学校づくり」を推進していくためには、学校からの一方的なお願いだけでなく、学校もまた地域の行事に積極的に協力する必要があります。さらに、学校は家庭や地域・社会の期待と意向を把握し、信頼に応え、反映させるとともに、その協力を得て連携を進めていかなければなりません。

九小は単独では存在しない。地域と共にある。「そう考えると、校長として学校を支援していただく評議員の方々から、学校の教育目標・計画や地域との連携の進め方などの学校運営について、意見を聞く必要があります。言い換えると学校評議員の方々は、校長の相談相手であり、学校と家庭と地域を結びつなぐ存在であると言えるでしょう。

九小は百三十六年という歴史を重ねています。学校評議員も地域を中心としてお願いし、いろいろと話を聞かせていただいています。学校の取り組みについても理解していただき、激励をいただくことにより職員も自信をもって子どもへの指導に当たることができています。

これからも、九小は常に新しい事へチャレンジしてまいります。地域に信頼され、誰もが誇れる学校づくりに「これまでどおり」という言葉はありません。学校支援もこのような観点からもお願いしています。

### きれいな学校図書館に



**(南砂小学校)**

本年度から、立川市の全小学校に学校図書館支援指導員が配置されました。本校においては、八月から配置が実現しました。教員も、子どもも待ち望んだ配置です。火曜日と木曜日の週二回はありますが、成果ははつきり目に見える形で出ています。

その成果とは、学校図書館が一層整備されたことです。本校は、これまで図書ボランティアが週一回熱心に本の整理や学校図書館の掲示・展示を行ってくださり、快適な空間でしたが、支援指導員が配置されてからは、図書ボランティアと連携し、その専門性を活かしてさらなる整備がなされました。今、学校図書館はいつも清潔で整理整頓され、季節や行事の掲示や展示があり、本を検索するときには指導員が相談のついでに、本の紹介もしてくれます。

また、子どもたちにとって知的空間であり、憩いの場であるものとなっています。

今後は、図書ボランティアとの連携を一層深めて学校図書館をグレードアップしていくと同時に、指導員による読み聞かせ等の読書活動への支援を通じて、さらに子どもたちの交流を深めていきたいと考えています。

### 中学校 部活動の充実に向けて

**(立川第六中学校)**

中学校の部活動に対する生徒と保護者の期待は、大きなものがあります。第六中学校では、およそ80%の生徒が部活動に加入し、全教員が部活動の顧問となっています。このような状況のなか六中では、八つの部活動(サッカー部、野球部、バドミントン部、剣道部、吹奏楽部、家庭科部、サイエンス部、パソコン部)について十七名の外部指導員の方に協力いただいています。外部指導員には、学生、地域でお勤めの方、会社等を退職された方、保護者、卒業生がいます。

運動部の生徒は、外部指導員の方を「コーチ」と呼んでいます。「生徒の健全育成のためなら、さらに協力しますよ。」との声から外部指導員の方からあり、さらに新たな外部指導員の方を紹介してくださるなど、生徒は、外部指導員のおかげで、技術が向上するだけでなく、あいさつや礼儀がきちんとできるようになり、学校生活にもよい影響が現れています。

また、道具や施設を大切にすることがもってこいです。これは野球部の外部指導員の方の影響が大きく、大変ありがたく思っています。野球部の校庭整備では、夏の雨の多い季節が過ぎると、校庭の土が凸凹になります。顧問と外部指導員の方が、交互に高校野球の甲子園で活躍する顧問の話とマウンド整備の大切さを生徒に話していただきました。その夕方には、外部指導員の方がトラックで土を運んで来ました。そして、野球部員とともに校庭の整備をし、きれいに仕上がった校庭で翌日から練習試合を重ね、夏の多摩大会へ出場できました。

このように、外部指導員の方のおかげで、六中の部活動がさらに充実しています。

### 今年度より全小学校配置(ハートフルフレンド)

**(第七小学校)**

今年から、第七小学校にハートフルフレンドが派遣されています。毎週木曜日に来校し、教師、保護者のどちらでもない立場から子どもに接し、子どもの相談相手として活動しています。

ハートフルフレンドの方は、友達関係や自分自身のことでも迷ったり悩んだりしている子どもが、自分の力でこれからのことを決めていけるような場を設定することに努めています。主に、休み時間等に子どもの対応をしています。また、授業中は学級で子どもと一緒に行動したり、担任と連携して別室で子どもと相談にのりたりして活動しています。

二学期から、保健室に「おはなしボックス」という箱が設置されました。ハートフルフレンドの方に相談したい子どもが相談の申し込みをしたり、手紙のやりとりをします。子どもの自立を促す対応をしてくださるハートフルフレンドの方がいてくれることで、学校の興行が広がっています。



# 子どもたちの「生きる力」をよりいっそうはぐくむために

## ～今、立川の小・中学校では、様々な方々のご支援をいただいています～



### 特別支援教育の充実

**(第五小学校)**

今年度からの立川市独自の「特別支援教育支援員」配置により、本校の特別支援教育は充実した取り組みとなっています。本校では支援員の方に、授業中に支援が必要な児童のいる学級に入ってもらい、一斉の説明などで理解できないところを補足してもらっています。

図工や家庭科などでは「それでいいよ」「上手にできていないね」などの言葉かけで、安心して取り組めるようになっていきます。このような支援で、児童は安心して授業に取り組むことができ、学習に集中することができるようになってきました。

また、休み時間には、友達とのかかわりに気を付けながら見守ってあげています。支援が必要な児童は、友達とのかかわりの中でトラブルとなることが多いので、トラブルになりそうな場面やトラブルのとき子どもと先生の間に入り、児童の気持ちを落ち着かせながら、友達との気持ちを考える手助けをします。このような取り組みの中で友達とのかかわり方を理解し、学校での生活が安心してできるようになっています。

「特別支援教育支援員」の配置により、特別支援教育を進める上で様々な手立てがとれるようになりました。



### 豊かな学校生活をめざして

**(立川第五中学校)**

本校では、教育活動を一層充実させることをねらいとして、今年度より保護者の方によるスクールボランティア制度を発足させました。現在二百五十六名の方に登録をいただき、六つのグループ(A:授業支援、B:図書室の管理・校内環境整備、D:統計処理、E:情報発信整理、F:安全管理)に分かれて活動中です。

これまでに「昼休みの図書室開館をはじめ、授業中の個別指導」「放課後の学習会のお手伝い」「学校評価授業評価の集計」「登下校時の通学路パトロールや校庭の花壇の手入れ」等、様々な場面でご協力いただいております。

スタートして三ヶ月、教職員だけでは取りきれなかった部分を、保護者の皆さんに積極的に協力していただくことで、学校が確実に良い方向に向かっている形が現れています。目に見えない形で成果が現れている取り組みも多くあります。汗を流すことによって、学校を変えていくエネルギーが生まれることを強く感じています。子どもたちの三つの顔、「笑顔」「真剣な顔」「誇らしい顔」の実現を目指して、活動を発展させていきます。



### 子どもたちの安全のための「セーフティ教室」

**(立川第二中学校)**

社会の変化とともに治安が悪化し、多様化した犯罪が発生しています。特に、青少年にかかわる犯罪は、複雑化し、深刻化する傾向にあります。このような状況のもと、子どもたちが犯罪や事件の被害者や加害者とならないために、犯罪防止策を講じる必要があります。心身の発達に著しいこの時期に、善悪の判断や社会生活のルールをしっかりと身に付けさせ、危機予知能力や危機回避能力を養うことが大切です。そのためには、学校での犯罪防止教育はもとより、家庭や地域、警察や児童相談所等の関係機関と連携を図り、非行や犯罪防止に向けた指導を推進する必要があります。

本校では、生徒を「犯罪から守る」「犯罪を起させない」ために、毎年「セーフティ教室」を実施しています。今年度は、立川警察から二名の講師を招き、現在増加している「携帯サイトやメールでの被害対策」等について、立川警察内で扱った事例をもとに、丁寧なご指導をいただきました。

その後、地域の方にも参加していただき意見交換会を行い、共通理解を図りました。



### 働くことの意義を感じた3日間

**(立川第九中学校)**

今年度九中は、七月十五日から三日間、飲食店、スーパーマーケット、保育園、税務署など四十一の事業所の方々の協力のもとに、職場体験を行いました。事前学習、事前訪問を経て三日間でしたが、生徒にとっては緊張の連続だったようです。しかし、慣れ親しんだ学校や友人から離れ、見ず知らずの人たちの中で働くことにより、自分の新しい一面を発見できた嬉しさを語る生徒もいました。また、働くという立場に立って改めて気が付いたことあり、保護者や体験先の方々への感謝の気持ちも芽生えたようです。

体験を終えてからの生徒は、それぞれの三日間を振り返り、職場体験新聞を作成し、各クラスや学年で発表を行いました。その内容から、大変さの中にもやりがいや楽しさを見出したことと、「働くことの意義」を感じた様子が見え、社会に本格的に出る前のこころの成長がうかがえます。自分の適性を見出し、進路を切り拓く一因になることを確信しました。

お世話になった各事業所の皆様、ありがとうございます。



### 安全な水泳指導のために

**(上砂小学校)**

暑い夏は、児童にとってプールでの授業が楽しみな時期です。しかし、二年前には埼玉県浦のプールで痛ましい事故も発生し、児童が水に入ることに一層の配慮を要しています。立川市では、小中学校で授業として実施するプールに補助員を置き、その安全な運営を図ることを目的に、小学校授業プール補助者を配置しています。

上砂小学校では、六月より三人の補助者の方に来ていただきました。教員に加えて補助者がいることで、複数の目で子どもたちの状況を見ることが出来るので、①児童への監視の目が行き届きやすくなり、安全確保が図れる。②水の音でかき消されがちな指示の音が復唱され、プール全体に行き届きやすくなる。などの安全面が高まることに加え、一人一人の泳力が把握しやすくなり、それぞれにあった適切な指導が行えるなど、児童の水泳に対する楽しさや泳げたという充実感を味わわせることが、一層出来るようになりました。

授業プール補助者は、児童の生涯にわたる基礎を学ぶ小学校にとって、大切な学びの一つとなっています。



### 人権啓発ラッピングバスが運行中です

第三小学校の代表児童17名が描いた絵をもとにデザインした「人権啓発ラッピングバス」4台が、11月1日から12月31日まで都内の営業路線を走っています。そのうちの1台は、立川駅南口～国立駅南口間で運行しています。



### 「立川教育フォーラム」のご案内

日時 平成21年1月14日(水)午後1時50分より  
 場所 立川市市民会館(アミュー立川)大ホール  
 テーマ 「ともに考えよう これからの立川の教育」  
 ～ 子どもたちに生きる力をはぐくむために ～  
 趣旨 立川市立小・中学校の教育実践等を保護者や市民の方々に広く紹介し、教育への理解を深めていただくことをねらいとし、開催いたします。  
 内容 生きる力をはぐくむ立川の教育実践紹介  
 講演「学習指導要領の改訂と生きる力の育成」  
 講師 文部科学省初等中等教育局視学官 宮崎 活志 先生

当日は、市内の全小・中学校のポスターセッションによる取り組みの紹介が全体会開始の前に行われます。  
 なお、ポスターセッションのパネルは、1月9日(金)より地下展示室にて公開しております。お気軽にご覧ください。



**中学生の職場体験 協力事業所**

中学生の職場体験の協力事業所ステッカーを作成いたしました。職場体験学習に協力していただいている事業所の方々に、左のようなステッカーを配布します。ぜひ、市民の皆様も中学生の職場体験にご理解・ご協力をお願いします。

**ホームページに公開しました**

①平成十九年度「東京都児童・生徒の学力向上を図る調査」等の立川市の分析結果  
 ②平成二十年度「立川市立中学校学力検査」等の分析結果  
 ③平成二十年度「全国学力・学習状況調査」の立川市の分析結果

について、立川市のホームページに公開しました。  
 また、市内の小・中学校のホームページにおいても、分析結果を生かした「授業改善推進プラン」を掲載しています。それぞれの学校の取り組みを、是非ご覧ください。

### 支援が必要なお子さんの 小学校入学時に 「就学支援シート」の活用

#### 「就学支援シート」について

「就学支援シート」は、平成21年度小学校に入学されるお子さんに障害や発達障害等により学校生活に支援を必要としている方を対象に、豊かで楽しい学校生活を送ることができるよう、希望する保護者が幼稚園・保育園・療育機関と協力して作成し、支援の内容について学校に引き継ぐものです。幼稚園・保育園等の就学前機関での指導内容や工夫してきた配慮等について、学校へ伝えることで、入学後、より適切な学校生活の環境をお子さんに与えることを目的としています。

#### 「就学支援シート」の作成

「就学支援シート」の作成時期については、入学する学校が決定した頃からとなります。まだ学校が決定されていない方は、就学相談員と相談しながら作成してください。

また、「就学支援シート」の用紙については、市内の幼稚園・保育園及び教育委員会学務課・教育相談室にあります。

#### 「就学支援シート」の提出

「就学支援シート」を保護者の方が提出する場合は、教育相談室(錦地域センター2階 527-6171)まで直接ご持参ください。

受付時間は、祝日を除く月曜日から金曜日の午前9時30分から午後5時までです。

#### 「就学支援シート」の提出期限

入学後のスムーズな支援のために、平成21年1月末日までに提出してください。

なお、関係機関との調整で提出期限に合わない場合は、入学までに随時受け付けています。

学務課・内線337

### 祝 教育委員会表彰

立川市教育委員会表彰規程に基づき、十一月三日(祝)に以下のとおり表彰を行いました。(敬称略・順不同)

中野高(柏町) 北京オリンピック出場 笹井正樹(西砂町) 全国高等学校総合体育大会テニス競技大会 団体3位 シングルスベスト8 中村拓貴(砂川町) 都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会準優勝 井上皓平(栄町) 2006ポニーリーグ世界選手権大会第3位 川畑拳吾(立川二中2年) 世界ローラースピードスケート選手権大会出場 田中優衣(立川五中2年) 関東中学校陸上競技大会女子共通走高跳第3位

教育委員会では、有益な調査・研究、特に模範とする行為、教育・文化の振興における功績、体育その他の文化活動において特に優秀な成績をあげた個人または団体を、規定に基づき表彰しています。

自薦・他薦を問わず、随時行いますので、詳しくはお問い合わせください。

教育部総務課・内線409

## 第28回 立川市中学生の主張大会 あなたに届け 中学生からのメッセージ

「第28回中学生の主張大会」が11月3日(月)、立川市市民会館で開催されました。応募作品2670編の中から、市内12地区の青少年健全育成地区委員会の一次審査及び個人審査会の二次審査で選ばれた15人が、将来の夢や家族、様々な人たちの交流を通して学んだこと、小さな子どもや友達から勇気をもらったことなど、日々の生活や体験から感動したことを生き生きと意見を主張しました。また、応募作品にはボランテア活動の体験談から社会の出来事など様々な作品がありました。

市長賞には、第五中学校の山中統さんが選ばれ、自分が思った病気を通して、親の愛情の深さに感動し、親への感謝の気持ちを込めた「忘れてはいけないこと」を主張し、多くの来場者が感動して聞き入っていました。なお、各受賞者は一覽表のとおりです。

アトラクションは、第三中学校生徒による素晴らしい吹奏楽が披露され、来場者に大きな感動を与えました。

中学生の心を知ることが出来た一日でした。

#### ●受賞者一覽●

(敬称略)

賞名	題名	氏名	学校名・学年	地区
市長賞	忘れてはいけないこと	山中 統	第五中学校3年	砂川
議長賞	将来について	初道 結里	第一中学校2年	曙町
議長賞	始める勇気	松隈 有咲	第一中学校2年	富士見町
教育委員長賞	言葉の列車をつなげよう	水橋 響	第六中学校2年	幸町
教育委員長賞	日本と世界の架け橋に	渡辺 夏織	第七中学校2年	西砂川
特別賞	生きる	福元 真澄	第二中学校2年	栄町
特別賞	家族	三島 伊織	第一中学校1年	柴崎町
青少年問題協議会会長賞	あなたを待っています	緒方 景子	第一中学校3年	柴崎町
	自慢って何?	竹山 聡美	第三中学校1年	錦町
	「理想の話し合い」	丹羽 慶始	第四中学校1年	幸町
	自分らしさ	浜野 愛	第五中学校2年	砂川
	私を変えた一つの英単語	坂本 歩未	第五中学校3年	砂川
	大切なことを学んだ誕生日	城 清美	第七中学校1年	西砂川
	心のバリア	飯野 友梨	第八中学校3年	富士見町
アシュリーちゃんから学んだこと	小名木 舞花	第九中学校3年	若葉町	

### 図書館探検 11

図書館のサービスが便利になりました

立川市図書館では図書館システムの入れ替えに伴い、図書館サービスの拡大を図りました。今回は、その主な変更箇所をお知らせします。

まずまず便利になった図書館サービスをぜひご利用ください。

情報検索コーナーが開設されました

インターネットや各種データ



1ページ等を使い、資料の検索や情報収集等を目的とした情報検索コーナーが立川市図書館全館で開設されました。中央図書館は3階に5台、各地区館にはそれぞれ1台設置しました。調査研究等に活用ください。

本の検索や予約が携帯電話からもできるようになりました

パソコンから利用できる図書館の検索システムが、携帯電話でも使えるようになりました。最初の画面でログインすると、本の予約、利用状況の確認、パスワードの変更やEメールアドレスの登録などもできます。ぜひご利用ください。

分類での検索ができるようになりました

立川市図書館で使用している分類記号で本を検索することができます。日本十進分類法(NDC)の分類だけでなく、立川市図書館で独自に使っている分類でも検索できます。

その他、こんなところが変わっています

最初にログインすることで、本を予約する際に利用者番号やパスワードを入力する必要がなくなりました。また、本・CD・雑誌を同時に検索することも可能になりました。

図書館の利用方法や資料の探し方など、わからないことがありましたら、気軽にカウンターや電話にてお問い合わせください。

図書館・内線6402

## 第28回立川・昭島マラソン

「第28回立川・昭島マラソン」の出場者を募集します。主催は、立川市・立川市教育委員会・昭島市・昭島市教育委員会と両市陸上競技協会など。会場は、国営昭和記念公園とその外周道路など。あなたも参加してみませんか。

開催日 平成21年3月8日(日)

- 種目
- ①ハーフマラソン
  - ②10キロ
  - ③3キロ
  - ④ファミリー駅伝(A・B・C部門)

申込み ①市役所、②泉・柴崎市民体育館、③大会事務局、④パワースポーツ立川店(フロン中武6階)で配布する用紙に必要事項を記入し、1月12日までに郵便局で参加料の振込みを(④では直接支払いも可)

問合せ 立川・昭島マラソン大会事務局(TEL 523-0003)、または泉市民体育館(TEL 536-6711)



### 立川の歴史と文化財 12

立川原合戦戦死者供養鉦鼓

直径およそ十九センチ、高さ七センチの銅製の念仏鉦鼓で、東京都指定有形文化財です。元来、鉦鼓は雅楽や舞楽に使われる打楽器ですが、この鉦鼓は永正元年(1504)の「立川原合戦」の戦死者を供養する目的で、毛呂土佐守頭季が四十八口作ったものの一口とされています。縁の裏側には阿弥陀を表す種子を中央に、為百万返念仏所求之鐘四十八ヶ於武州立川原合戦々死不知員依之思立者也永正元年甲子九月廿七日毛呂土佐入道幻世と五十二文字の銘文が刻まれています。

また、この鉦鼓は「立川原合戦」を実証する資料でもあります。この合戦は、山上杉家と扇谷上杉家の覇権争いに端を発し、扇谷側の太田道灌の暗殺

(1486)に成功した山之内上杉頼定は扇谷上杉朝良に戦いを仕掛けましたが、逆に北条早雲等の援軍を得た扇谷側に敗北を喫した合戦です。この合戦を契機に、後北条氏の関東への本格的な進出が始まりました。「立川原合戦戦死者供養鉦鼓」(実物)は、東京文化財ウィーク期間中十一月一日から三十日まで、立川市歴史民俗資料館特別展示室にて展示・複製品は展示室に通常展示してありますので、いつでも見学することができます。

